

「共同募金に御協力を」

今年も十月一日から共同募金運動が全国一斉に展開されており、共同募金運動は、郷土をみんなの力で明るく住みよい、社会にするために思えない子供達・身寄りのないお年寄り、又身体の不自由な方々や、病める人などのために暖かい心をさしわたるみなで助け合いをしていただく運動です。

本年の募金目標額は、二十二万九千七百七十一円です。

本町も是非、昨年同様町民の皆さん方の理解ある御協力をお願いいたします。

◎警察官の募集

千葉県においては、次の要領によつて千葉県警察官の募集を行っております。

①募集期間

九月二十一日から十月二十日まで

②年令

昭和十二年四月二日から十九年四月一日までの間に生れた日本人男子

③学歴

学歴は問いませんが、高校卒業程度の試験を行います。

④待遇

初任給一万三千元、他に扶養、期末、勤勉、通勤手当、被服の現品支給があります。

その他詳細は、最寄りの派出所、駐在所へお問い合わせ下さい。

本年の養老年金受給者百八十七名

本町では去る九月十五日の年よりの日に町内在住の八十才以上の高令者に敬老と感謝の意を表し合せてその長寿をお祝い申し上げる意味で養老年金を支給しました。又九十才以上の高令者には特に県知事からの養老年金と長南町社会福祉協議会からのお祝いの座ぶとんを合せてお送りして大変喜ばれました。

(藤尾石蔵さん)



(馬場まんさん)



(浜田はるさん)



(根村富五郎さん)

「お役所」仕事の苦情について

今まで行政に関する苦情は千葉県行政監察局で扱って参りましたが、進展もたぬままに多くなる苦情の処理は充分とはいえない実情です。こういった事情から新に行政管理局長官が委嘱する「行政苦情相談協力委員」をみなさんの身近に置き、行政に関する苦情、不満はもちろん、皆さんの意見や要望についても直接取扱いする制度ができ、当地では次の方が協力委員になりました。

茂原市高師八三八

齋藤 首

◎取扱行政苦情の範囲

- ①許可・認可の促進あつせんについて
- ②農地の移転・転用・登記などの問題について
- ③遺族年金・恩給の受給問題等について
- ④公共施設の整備の促進について
- ⑤生活保護等の社会福祉関係について

皆さんの中にはこれらの問題について申請したが回答がない、遅い、或いはこうも回答したい、ああもしてもらいたいといろいろな心配、希望があることと思いますので、もし苦情があつたら、齋藤協力委員宅に向いて申出ると当局があつせん処理をしてくれます。

一町民の美挙

去る八月十二日「ことしもおぼんが近づきました。ほんの少しばかりのものがすが恵まれない人達に何かあげる足しにして下さい。」と書添え金一封を送られた匿名の美しい心の方がありました。町では早速法外援護費の一部として受け入れ不遇の方々に差し上げる事といたしました。お送り下さった方にはこの広報紙を通じ厚くお礼申し上げます。

ひかり号は読書の秋に訪れる

県民の文化の高揚をはかるために、千葉県中央図書館ではひかり号に本を満載して、県下の各町村を訪問して大好評をばくしております。

本町のひかり号の停車場は、長南役場前・豊栄農協前・東・西・小学校前です。巡回日は有線放送でそのつど御連絡いたします。読書の秋です。ひかり号を利用しましょう。

○南米に移住する 佐藤浩之君

上豊原区、佐藤剛之さんの弟、浩之君は長生一高在学中よりブラジル移民に対して深い関心を寄せ今春卒業とともに移民手続きも完了して十二月三十日横浜出帆のサントス丸で母国を後に一路南米アマゾン河支流アカラ河畔のベレンに向つて出発いたします。



「がん」の心配はありますか?

私たちの体は、沢山の細胞から出来ています。

そして細胞は普通正常な姿で絶えず調節されながら必要なだけ新しく作られるとともにある働きをもつていて、一定の役割を果たしています。ところが或る部分の細胞が原因不明で突然変化を起して、正常細胞のような働きを持たない細胞となつて無制限にどんどん勝手に殖えてゆく場合があります。

これが「がん」です。死亡で一番多いのが脳卒中、二番目が「がん」この「がん」はじりじりと知らぬ間に体を侵すので、一べんに心づかりかえる脳卒中よりなおさら



たちが悪いといえましよう。それに「がん」は四十才から六十才位の働き盛りに死ぬ人が多いのです。このときに死ぬことは社会的にも家庭的にもまことに堪えられないことです。

この「がん」による死亡は年々増加しており約五分間一人づつ、日本のごとくで、だれかが「がん」で死んでいくのです。この恐ろしい「がん」も早いうちに見つけて早く治療すればなおります。

あなたが次の七つの危険信号に思いあたることがありましたら、早速、医師の診断を受けて下さい。「がん相談券」は役場保健課に用意してあります。

- ① 胃腸の具合が長らく悪かつたり、食べ物の好き嫌いに変化が起きたとき。(胃がん)
- ② 子宮から不正出血やおりものがふえたりしたとき(子宮がん)
- ③ 大便秘結がまじるとき。(直腸がん)
- ④ のどの奥にものがつまつていくような感じのするとき。(食道がん)
- ⑤ 血痰やせきがつづくとき。(肺がん)

⑥ はれものや、乳のしこりが大きくなる時。(皮膚がん、乳がん)

⑦ 原因がわからずにだんだんやせたり、顔色が悪くなつてくる時。(すべてのがんに共通)

本町では、この恐ろしい「がん」を撲滅するため県の予防課と茂原保健所の御協力をいただき、県の「がん検診車」による無料巡回検診を要請して第一次の検診を、去る七月十八日より三日間実施し、検診者二百七十四名のうち精密検診を要したものは、三十三名に当る九十二名と云う多数にのぼりました。この精密検診は、県立鶴舞病

院に委託して、病院でも受検者を最寄りの場所まで自動車を送り迎えなどいろいろな御協力をいただいております。

又、精密検診に要する経費は一人二千八百円程度かかりますが、町で負担をし受検者は無料です。今まで判明した第一次の検診の結果は次の通りですが異常のなかつたものは僅か百十九人で受検者の四十三名にすぎません。

尚 去る八月二十九日三十日、三十一日に実施した、第二次がん検診に於ても、実施者三百四十一名のうち八十六名の精密検診を要するものが発見されました。これ等の方も前回同様の方法で十月九日より行います。

第一次がん検診結果表

胃下垂	八十六人	胃炎	十六人
胃潰瘍	十四人	胃潰瘍疑	六人
十二指腸潰瘍	五人	胃炎	三人
胃下垂	胃下垂	胃下垂	胃下垂
十二指腸潰瘍疑	二人	十二指腸潰瘍疑	二人

★ ★ ★ 日割が決定した 結核健康診断

結核健康診断は法律によつて毎年一回受けなければなりません。そこで本町は十一月十日より十二月下旬に亘り、東地区・西地区・庁南地区・豊栄地区の順で実施することになりました。各部落の診断日は後日有線放送、回覧板等で連絡いたしますので、野良着のまま全員この健康診断を受けましょう。

○年金サノサ節

- ① 百年も生きたいねがいは人の情生るからには住みやすく今からかまはし年金を末は子供にや世話かけぬ
- ② 一本の杖をたよりにあるく道昔は二人で来た道と想いながらも年金がたよりになつて生きる今日
- ③ 最愛の夫に死なれた悲しみは誰にも云えぬととともに力となる年金は
- ④ 三度のめしも前のまま
- ⑤ 父母のおもかげ恋し夕月よ父のさづけし年金と母が残した愛情で強く明るく生きるのだ
- ⑥ 好評をまくしている、サノサ節の歌詞を録音テープに吹込みたいと思ひますのでノドに自慢の方はお申出を、お待ちしております。

あなたの年金はあなたの手で

一、国民年金は届出より届出事項

手続

- 七十才に達したとき(公的年金受給者を除く)：老令福祉年金
- 夫と死別したとき：寡婦年金
- 離婚したとき：離婚年金
- 強度の障害者となつたとき：障害年金
- 年金を受けている人が死亡したとき：未支給年金
- 二十才に達したとき(公的年金加入者を除く)：資格取得届
- 提出年金の被保険者が他の公的年金に加入したとき：資格喪失届
- 被保険者が死亡・婚姻・転出のとき：死亡届・住所・氏名変更届

〃 各種届出はすみやかに〃

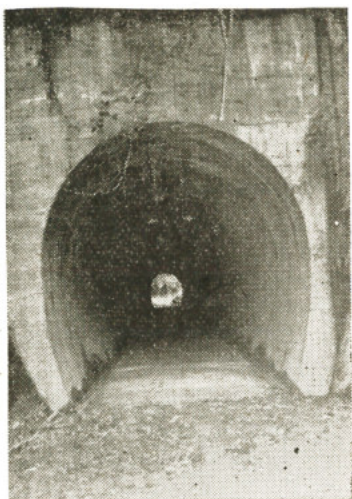
一、納入組合の報償費決定

国民年金納入組合の報償費は取扱額の二・五割と決定し九月二十六日の町議会で議決されました。

〃 みんなで完納、納入組合〃



舗装された 深沢地先隧道



木更津、茂原を結ぶ県道深沢地先二ヶ所の隧道は、一昨年に第二隧道内が完全舗装されて一般利用から喜ばれていたが、重車輻輳の通行とともに第一隧道内は非常に悪くなりその上、湧水が多く通行困難な状態であった。

最近京葉工業地帯の造成と茂原工業地帯の発展、笠森観音堂の復元による参拝客の増加等により利用は急激に増え、沿道住民を始め利用者から改修が要望されていたので、茂原土木出張所においては八月下旬より突貫工事により隧道内九十五米舗装と前後の取付道路八拾五米が整備されたので切替にう廻す必要がなく相当短縮された。

ほかに町内の県道舗装は元宿地先約参百米、若ヶ沢地先一五四米が本年度事業として工事されている。

多い農家の用事

「年間百日」以上

最近新聞、ラジオ、テレビ、雑誌等で国民の所得の上昇、生活の向上が盛んに取上げられている。所得の上昇は或る程度、投下資本労力に比例する場合は多いが現在の農家は無駄な用事はなるべく少くする必要がある。公用、部落行事、交際等において年間どれくらいつづれるか、西地区の島野さんの記録により調査してみると、天候、ひまら等により休日を除いても年間約百三十三日つづれている。これは公職を二役持っている場合であつて、公職を除いても年間百日位はつづれる。

年間に消費した時間区分

- ①役場・農協関係 二百四十四時間
 - ②部落関係 三百五十一時間
 - ③神社仏閣関係 七十四時間
 - ④交際その他 三百九十三時間
- 計 一千六百六十二時間
- なお 役場・農協関係は役員としての用務の外これらによる部落集会を含んでいます。部落関係は道路工事、部落行事等です。交際その他は親類、知人宅の招待等一日を八時間として計算すると百三十三日です。

「飼い犬に 注意して下さい」

近年社会生活の安定に伴い、犬の飼養は増加の傾向にあり、これらの犬により、かまれた人も相当数に上つております。

又、犬による農作物、庭園等の被害とか、排泄物による環境衛生上の問題から今度千葉県飼い犬取締り条例が制定され、犬による危害を未然に防止する等の指導取締りを七月一日より施行されております。犬の所有者の皆さんは次のことにつき御協力下さい。

- 一、飼い犬が他人の身体に危害を加え、又は他人の財産に損害を与えることがないよう管理すること。
- 二、犬舎の外その他飼い犬を飼養する場所は、常に汚物を処理する等の方法により清潔にしておくこと。
- 三、門柱、家の出入口その他、他人の見やすい個所に、飼い犬のいる旨を表示しておくこと。
- 四、飼い犬を捨てないこと。
- 五、犬が人をかんだときは、直ちに役場、又は保健所へ届け出なければなりません。

自衛隊志願案内

防衛庁においては、防衛大学を始め、看護学生、自衛隊生徒、陸上、海上、航空自衛官の募集を行つております。

現在自衛隊は就職の一環として特に各種技術習得のよい職場となつております。

若さと希望にみちた青年時代に尊い体験として、また職業として意義ある自衛隊での生活によつてあなたの将来への基礎をつくりましょう。

募集区分	募集受付期間
防衛大学生	十月二日～三十一日
海空操縦学生	九月一日～十月三十一日
看護学生	十月二日～十月三十一日
自衛隊生徒	十月二日～十月二十五日
二等陸海空	九月一日～十月三十一日

なお、詳細については役場総務課までお問合せ下さい。

「秋祭りの世論調査」

★十月十五日
希望者七三%

秋の豊かなみのりを喜び祝う秋祭は、豊栄地区と一部の地域を除き大部分が九月中に行われておりました。

最近、早期栽培の普及により秋祭りと水稲の収穫が一緒にになり楽しめるようになり数年前より秋祭りの変更改善について各団体に強い要望があつたので、町内の二十才以上の方四百人を対象に年別、男女別、に分け調査を行つたところ三百六十三人より次のような回答があつた。

- ①秋祭りは現在通りがよい。三十一人(男十人・女二十一人。)
 - ②九月十五日に全町統一するこがよい。六人(男三人・女三人)
 - ③九月中に地区単位に統一するがよい。十三人(男七人・女六人)
 - ④十月中に地区単位に統一するがよい。九十六人(男五十三人・女四十三人)
 - ⑤十月十五日に全町統一するこがよい。二百七十七人(男百九人・女百八十八人)
- なお、十月十五日を希望するものは七十三名を占めていた。又全町統一祭りの希望を年令別に見ると二十・三十台が六十名以上を占め四十・五十台は五十名以上を占め若いう程統一を希望している。

お開帳をまつ 笠森観音堂



阪東三十一番の霊場として、又四方懸がい造りのお堂として最古最大を誇る、笠森観音堂のお開帳は来る十七日より十一月二十日迄三十五日間に亘り行われる。

本年は特に十二年に一回のお開帳に当り、解体修理後始めて迎えるので十月十七日には工事関係者一同により落慶式十一月二日には大提灯供養、つづいて三日に中回向が行われるとともにこの二日間には多くの催しものがある。



十月十五日の祭礼

全町の八割!!

秋祭りの全町統一については、早くから叫ばれておりましたが、永い間の慣習により行なわれていたことであり、又各々の祭神を中心とした行事であるのでこの統一は困難であつたが、時代の変化により統一の気分が急速に高まつたので、これを期するため各種団体代表会議を開催し、十二分に検討を加え神職、区長会にはかつた結果、各神社の氏子、氏子総代の協力を得て十月十五日に統一することが最も良いといふ結論に達しました。

十月十五日祭礼

豊栄、西地区全部落
東・地区(芝原を除く全部落)
長南地区 深沢・笠森・蔵持
利根里・元宿・西谷・三交・三途台の各部落です。

読書の秋・おとなの勉強

世の中は目まぐるしく進歩している。

世相の進展につれて、ものごとの考え方も思い切つて切変えていかなければ、時代に取り残されてしまう恐れがある。

こんな理屈は誰しもが承知していることであるが、人間とは不思議な動物で一度固定するとなかなかこれから脱皮することの出来ない習性を持っている。

農業経営の問題でも、結婚改善のことも或は祭礼行事調整の問題でも従来からのしきたりを変えようとする場合、まず不安が先立つし中々踏み切れないというのが実状ではなからうか。

その不安感こそ勉強から来る理解力の欠如であり、遂には自信力をも失つてしまう結果となるのではなからうか。私達は常に現状をみつめ、これらどう変つていくのかをよく研究しておれば時代にそくした頭の切り換えも自信も持つことができる筈である。

時代が進めば進む程、消費も増大するのが常である。

そのためには更に所得の増大をはかり反面消費をより合理的に考へて、時代の流れに遅れないよう心掛けなければならぬ。

それには、先ず読書心を高め常に勉強の心構えを養いかりにも、知らない、不安という消極的悪癖

選挙人名簿を確かめましょう

来年使用する基本選挙人名簿を現在作製中ですが、名簿への登録もれ、誤記などを防止するため十一月五日から十九日まで、役場において、この名簿の縦覧を行ないます。

この期間内には自由に名簿をみることが出来る。又異議の申立

をすることも出来ます。たしかに登録されているかどうかたしかめて下さい。

にしたいものです。

「わし等、おとなが、今更いい年をしてなにを勉強など」と言い学習だの、勉強だのというのは、学校へ行つてゐる時だけで沢山だと考へてゐるむきも多いのだが、一体、勉強するのにはいい年も悪い年もありわししない。

ゆりかごから墓場まで、教養のつまかさねでなければ、社会に於ての人間の向上などあり得る筈がない。

「ほたるの光」は、学校教育には別れを告げる歌かもしれないが教育そのものへ別れを告げる意味のものではないと思う。

学校を卒業するということは、社会と云う学校へ入るはじめてであつて、その後は年代に応じて人的に進歩向上して後から続くものへの指導者となつて行くべきではなからうか。

こうしたことを考へると学校教育が終つたからといつて勉強しなくていいなどとは決して言へるものではない筈です。

所得の倍増に、消費の合理化に、亭主族も婦人もともどもに肩を並べて学習したり話し合つたりといふふん困気をかもし出し明るい町づくりへの意欲を高めたものはあります。

特に秋は読書のシーズンとも言われています。長南町のおとなの方々、後から続く若い人達にまけないように大いに勉強しようではありませんか。

印鑑事務に 思うこと

窓口事務に當つて一番気骨の折れるのは如何にお客の求めに対し正確に然も法規の範囲内で応じ得るか云う点にあります。法律に基づいて行ふ仕事は私見が許さないので問題がありませんが重要な事でありながら未だ法律化されないもの、一つに印鑑事務があります。私共は機会ある毎に法律化されるよう要望して居りますが現状では町村独自の条例により規定されている次第です。従つて町村毎に、それ／＼異り不明確になる恐れがあると考へられます。印鑑については今更その重要性を記すまでもなく皆さん方の日常生活を思い浮べて頂ければ誰しも知るところであります。私共役場と印鑑について事務を行つていまして非常に軽視する者が多いのに驚いてしまいます。印鑑についていまだ一度認識を新たにして頂き今後の日常生活に役立てて、頂ければよいと思ひます。

印鑑届又は、証明の交付を受ける場合は必ず本人がすることが原則であります。止むを得ない場合にのみ代理人により行うことが出来ます。

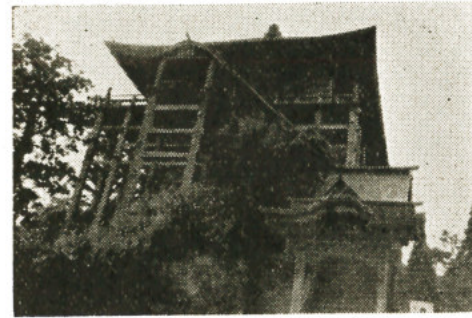
この場合は必ず委任状を持参して下さい。

お開帳をまつ

笠森観音堂



阪東三十一番の霊場として、又四方懸が造りのお堂としては最古最大を誇る、笠森観音堂のお開帳は来る十七日より十一月二十日迄三十五日間に亘り行われる。本年は特に十二年に一回のお開帳に当り、解体修理後始めて迎えるので十月十七日には工事関係者一同により落慶式十一月二日には大提灯供養、つづいて三日に中回向が行われるとともにこの二日間には多くの催しものがある。



十月十五日の祭礼

全町の八割!!

秋祭りの全町統一については、早くから叫ばれておりましたが、永い間の慣習により行なわれていたことであり、又各々の祭神を中心とした行事であるのでこの統一は困難であったが、時代の変化により統一の気分が急速に高まったので、これを期するため各種団体代表会議を開催し、十二分に検討を加え神職、区長会にはかつた結果、各神社の氏子、氏子総代の協力を得て十月十五日に統一することが最も良いという結論に達しま

した。早速本年の秋祭りから実施すべく区長を通じ各神社の組織にはかつた結果前年までは、九月十三日に始まり十月二十一日迄の期間にまちまちに行われていた秋祭りも町内二千七百六戸の内、約二千二百に当る五分の四の地域が十月十五日に決定いたしました。

十月十五日祭礼

豊栄、西地区全部落
東地区(芝原を除く全部落)
長南地区 深沢・笠森・蔵持
利根里・元宿・西谷・三交・三途台の各部落です。

読書の秋・おとなの勉強

世の中は目まぐるしく進歩している。世相の進展につれて、ものごとの考え方も思い切つて切変えていかなければ、時代に取り残されてしまう恐れがある。

こんな理屈は誰しもが承知していることであるが、人間とは不思議な動物で一度固定するとなかなかこれから脱皮することの出来ない習性を持つている。農業経営の問題でも、結婚改善のことも或は祭礼行事調整の問題でも従来からのしきたりを変えようとする場合、まず不安が先立つし中々踏み切れないというのが実状ではなからうか。

その不安感こそ不勉強から来る理解力の欠如であり、遂には自信力をも失つてしまう結果となるのではなからうか。私達は常に現状をみつめ、これからどう変つていくのかをよく研究しておれば時代にそくした頭の切り換えも自信も持つことができる筈である。

時代が進めば進む程、消費も増大するのが常である。そのためには更に所得の増大をはかり反面消費をより合理的に考えて、時代の流れに遅れないように心掛ければならない。

それには、先ず読書心を高め常に勉強の心構えを養いかりにも、知らない、不安という消極的悪循環を繰返すようなことがないよう

にしたいものです。

「わし等、おとなが、今更いい年をしてなにを勉強など」と言い学習だの、勉強だのというのは、学校へ行つてゐる時だけで沢山だと考えてるむきも多いようだが、一年もありわしない。

ゆりかごから墓場まで、教養のつまかさねでなければ、社会に於ての人間の向上などあり得る筈がない。

「ほたるの光」は、学校教育には別れを告げる歌かもしれないが教育そのものへ別れを告げる意味のものではないと思う。

学校を卒業するということは、社会と云う学校へ入るはじめてであつて、その後は年代に応じて人間的に進歩向上して後から続くものへの指導者となつて行くべきではなからうか。

こうしたことを考えると学校教育が終つたからといつてな勉強しなくていいなどは決して言へるものではない筈です。

所得の倍増に、消費の合理化に、亭主族も婦人もともに肩を並べて学習したり話し合つたりというふん囲気をかもし出し明るい町づくりへの意欲を高めたいものです。

特に秋は読書のシーズンとも言われてゐます。長南町のおとなの方々、後から続く若い人達にまけないように大いに勉強しようではありませんか。

愛読者より

印鑑事務に

思うこと

窓口事務に當つて一番気骨の折れるのは如何にお客の求めに対し正確に然も法規の範囲内で応じ得るか云う点にあります。法律に基いて行う仕事は私見が許さないので問題がありませんが重要な事でありながら未だ法律化されないもの、一つに印鑑事務があります。私共は機会ある毎に法律化されるよう要望して居りますが現状では町村独自の条例により規定されている次第です。従つて町村毎に、それ／＼異り不明確になる恐れがあると考えられます。印鑑については今更その重要性を記すまでもなく皆さん方の日常生活を思い浮べて頂ければ誰しも知るところであります。私共役場で印鑑についての事務を行つていまして非常に軽視する者が多いのに驚いてしまふ。印鑑についていま一度認識を新たにして頂き今後の日常生活に役立てて、頂ければよいと思ひます。

印鑑届又は、証明の交付を受ける場合は必ず本人がすることが原則であります。止むを得ない場合にのみ代理人により行うことが出来ます。

この場合は必ず委任状を持参して下さい。

